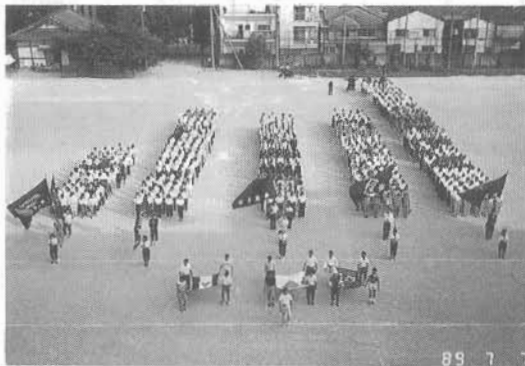


## 見た！ 広大健児の底力

学校教育学部学生 宮本英征  
(学生実行委員長)

胸のすくような思いであった——。  
第40回中国五大学学生競技大会夏季大会が去る7月7日～9日の3日間、この広島の地で開催されたのであるが、我々広島大学は2位の島根大学に10点差をつけて見事優勝したのであった。



昨今、どうも「1位」という言葉に見離されていた我が大学だけに、今回の夏季大会優勝は正にその底力を見せてくれたものと言えるであろう。この勝利の背景には、例年優勝候補に挙げられている競技はもちろん、実力はありながらも例年の善戦虚しく、宿敵に敗れていた競技の奮闘があった。見事6年連続優勝を果たした水泳男子。久々に定位置に返り咲いた硬式野球。今一步で男女アベック優勝を逸したものの広大のポイントの要となった、バレーボール。そして、長年の宿敵を押さえ込み、見事栄冠を勝ち取った陸上競技男子とバドミントン男子。その他の競技も例外なく善戦してくれた。

ただ残念であったのは、天候不順のため、硬式庭球と軟式庭球の競技が途中で中止される結果となった事である。部員の声援の飛ぶ中熱戦

が繰り広げられていたのだが、思わぬ雨のため、中止せざるを得なかったのが両競技の選手達にとっては遺憾であったに違いない。

さて、この五大学大会も今年で40回目を迎える。創始された頃は、まだ各大学が新制大学としてスタートしたばかりの頃であり、スポーツ活動の高揚と学生間の交流を目的として行われていたそうである。故に、この大会を機に発足したクラブも少なくないのである。このような意義深い大会が40年を経た現在どのように人々に受けとめられているのであろうか。

各大学とも、スポーツ活動の団体・施設ともに整備されており今さら「大会を機に」というべきものでもない。しからば学生間の交流はどうであろうか。これには多分に活性化の余地があると考えられる。各大学の企画団体(体育会、実行委員会等)間の意識の向上と協力体制がまず必要ではないだろうか。

7月9日、総合閉会式の前に私は学内の一角で酒宴を繰り広げる人々を見た。五大学の「打ち上げコンパ」であった。一競技だけではあるが、凄まじい盛り上がりようで、思わず足がそちらへ向きかけたのだった。この盛り上がり全体のものへと広がれば、五大学大会はより素晴らしい大会となるであろう。

素晴らしい大会、それは、参加者ひとりひとりが満足できる大会である。簡単な事である。プレー中の選手達の姿は見る者をも熱くさせる。のんで騒ぐ選手達は学生生活の意気を感じさせる。この大会をつくるのは、大学でもなく実行委員会でもなく、選手達一人一人であり、私自身その中の一員である事を忘れてはならないと思う。

冬季大会も広島大学が必ずや優勝である。